

日本経済の中期見通し（1997～2001年度）

バブル崩壊後の景気後退は93年10月に終了したが、その後も回復力の弱い状況が続き、「回復→足踏み」が繰り返されている。97年4月の消費税増税等の財政緊縮措置から景気の先行き懸念も強い。経済の現状を踏まえ、今後の中期的な動向を展望してみたい。

日本経済は93年末頃より回復傾向に入ったが、95年度上期の超円高等による足踏み、96年度上期の素材の在庫調整やO（オー）157等による足踏みなど、基調的には緩やかな回復傾向の中、「足踏み」を繰り返し、順調な成長軌道に乗れない状況が続いている。

こうした日本経済の弱さの背景には、不良債権問題や地価・株価の軟調推移などバブル崩壊の後遺症の影響があり、また、これまでの円高や世界的な大競争（メガ・コンペティション）の下で産業構造調整も迫られていることなどがある。

橋本政権は行政改革、財政構造改革、経済構造改革、金融システム改革など、6つの改革を打ち出している。日本経済は現在、閉塞感が強いが、こうした改革は経済に活性化をもたらす、本格的な景気回復を実現するためにも、不可欠のものである。しかし、改革の実施自体は一層のリストラや再編等を必要とし、景気に対してマイナス方向の影響を持つとみられる。

今後5年間の日本経済は構造改革が進められる中、景気は徐々に改善するものの、平均2%弱の低めにとどまろう。改革のプラス効果から景気回復が本格化する時期はその先となる。物価は低成長、高失業率、規制緩和進展などの環境から、安定基調が続こう。

中期見通し総括表（特に記載のない限り、%）

	[年度]									[年度平均値]		
	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	90/85	96/90	2001/96	
名目GDP成長率	0.5	2.0	2.6	2.1	1.8	2.1	2.4	2.5	6.2	2.2	2.2	
実質GDP成長率	0.7	2.4	2.4	1.0	1.4	1.6	2.0	2.0	4.8	1.5	1.6	
内需（寄与度）	1.0	3.4	3.0	0.8	1.4	1.6	1.8	1.7	5.3	1.6	1.5	
外需（寄与度）	▲0.3	▲1.0	▲0.5	0.2	0.0	0.0	0.2	0.3	▲0.6	▲0.1	0.1	
民間消費（前年度比）	1.6	2.8	1.9	0.8	1.1	1.7	1.9	1.8	4.4	2.0	1.5	
設備投資（前年度比）	▲2.8	5.7	6.1	3.9	3.3	3.2	3.5	3.3	10.1	▲1.2	3.5	
公的固定資本形成（前年度比）	▲1.1	7.7	1.4	▲4.9	0.1	0.1	0.1	0.1	4.0	7.2	▲0.9	
CPI上昇率	0.5	▲0.3	0.3	1.4	0.4	0.5	0.4	0.6	1.4	1.0	0.7	
経常収支（名目GDP比）	2.6	1.9	1.6	1.7	1.8	1.8	1.9	2.0	2.7	2.5	1.8	

（注）①96年度から予測値（次ページグラフも同じ）

②経常収支の年度平均値欄は、順に、86～90年度、91～96年度、97～2001年度の単純平均

財政政策は財政赤字削減に向けた緊縮型スタンスが継続されよう。97年度には消費税が増税され、特別減税が廃止される。今後、予測期間内では消費税の追加引き上げはないとみたが、歳出面では公共投資を含め抑制スタンスがとられよう。年々のフローである財政赤字の名目GDP比は現行レベルから縮小するものの、ストックである政府債務残高の名目GDP比は上昇が続こう。

金融政策面では低成長、物価安定、緊縮型財政政策等の中、基本的には金融緩和政策が維持されよう。景気の持ち直し傾向に沿って、現在、0.5%の公定歩合は段階的に引き上げられよう。長期金利も政策金利引き上げ、経済成長率アップなどから上昇方向となろう。今回の見通しでは、2001年度で公定歩合2%程度、長期金利4%程度とみた。

経常収支は92年度をピークに黒字幅が縮小傾向にあったが、足もと緩やかな増加に転じている。円安推移の下で輸出企業の国際競争力が回復しつつあることなどから、今後の経常収支は黒字が漸増する傾向となろう。円の対ドルレートは95年4月80円割れの行き過ぎた円高から円安方向への修正が始まり、96年12月以降、そのスピードが加速した。2月上旬のベルリンG7では「為替市場における著しい不均衡は是正された」との特別声明が出されており、目先、円安方向には歯止めがかかろう。中期的には日本の経常収支黒字の漸増傾向などからやや円高方向となろう。2001年度で105円程度とみた。

日本経済の課題は多い。来るべき高齢化社会への準備と経済活性化のための諸改革が重要課題である。今後5年間は、まさに21世紀の日本経済の帰趨を左右する重要性を持とう。

